

## 思いやりを示す

ビジネス業界で足りないものは思いやりです。それは言い換えると、自分の日常生活の中に関わってくる人たちの必要に耳を傾ける、ということです。私達は身近な人でも簡単に距離を置くことができるし、また無視することもできるのです。しかし、思いやりはビジネスにおいても人間関係においても非常に重要です。思いやりを示すことは、日々の人間関係においてとてつもなく大きな違いを生み出します。

思いやりとは私達の話しかただけで表すものではありません。思いやりとは人々が何を必要としているかを知らするために自分の時間を割くということでもあるのです。人の話をよく聞き、寄り添い、そして自分事としてその人に必要なことは何かと考えるのです。

意味ある満たされた人生を送るためには人間関係が不可欠です。例えば、私が子供の時の人間関係は家族だけでした。まだ 10 歳だったのでしっかりと人間関係を築く術を知りませんでした。人間関係を長続きさせるということを実感したのはもっと後、イエス・キリストを救い主として受け入れてからです。それは 2 回の離婚といくつもの友情を失ってからです。自己中心的になり自分のことを優先することは、人間関係を犠牲にするということです。

多くの人は「聞き方」の大切さを語りますが、イエス・キリスト以上にそれができる人はいません。イエス様の聞き方がどれだけ素晴らしかったかは次の 2 つの単語で表すことができます。聞くことの真髄（"Heart" of listening）は「彼（He）」と「技術（Art）」を合わせたものだということです。イエス様は群衆だけでなく一人一人の必要を感じ取ることができ、それと同時に奇跡をおこない、神様と関係を築く方法を知りたいと思う人たちに語りかけたのです。

私達は聞く心を育てる能力がありますが、それには代償が伴います。蛇口のように簡単にオンとオフを切り替えられるものではないのです。自分が置かれている状況を把握し、主が私達に何を求めているかを把握しなければいけません。簡単ではありませんが、神様の力によってできるようになるのです。

**エペソ 4:22-24** で使徒パウロはキリストに従うと決めた人達にこのように言っています。**「だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、**

**神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。」**。これこそが人々の必要に対してどのように思いやるかということに身を着ける唯一の方法だと思っています。

思いやりを身に着けるトレーニングなんて必要ありません。常に人々が何を必要としているかを気に掛けることです。必要なのは変えられた心です。人々を愛すること、特に愛することのできないときにも愛することです。これはイエス様の、また父なる神様の愛し方です。神様は私たちの必要を聞いてくださいますが、私たちがイエス・キリストこそが本当の平安と幸せを得るただ一つの道だと受け入れなければなりません。

思いやりは神様を第一に考えることで生まれます。それによって、神様は一生涯にわたって私たちの心を変え、イエス様の似姿に作り変えるためのプロセスをスタートさせるのです。**「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしておいて自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」**ローマ 12:1-2。

### もっと深めるために：

1. 職場で思いやりのある経験をしたことはありますか？適切に思いやりが示されるとはどういうことでしょうか？
2. 他の人に対してあなた自身はどのように思いやりを示しますか？
3. 他の人に対する思いやりを持つことは有利ですか？それとも職場においては不利ですか？なぜそう思いますか？
4. 思いやりを示した一番の模範者はイエス・キリストだと思いませんか？それはなぜですか？

参考聖書箇所リストです。参照ください：  
 詩篇 34:11-16・ピリピ 2:3-4・コロサイ 3:5-10・ヘブル 4:14-16・第一ペテロ 3:8-9

この発行はジム・ラングレイによって書かれました。月曜日のマナ®は CBMC より毎週発行しているメールマガジンであり「ビジネスとマーケットプレイスをキリストに」の世界的働きで、利益を求める活動では無く、超教派で、1930 年に創立され、各業界で働いている従業員、又、経営者ハイエス・キリストを宣べ伝える事を目的としています。